



令和4年8月5日発行  
 第12号  
 岡山市教育委員会  
 生涯学習課公民館振興室  
 (岡山市北区幸町 10-16)  
 TEL (086) 234-6015  
 公民館振興室 HP

## 今こそ知ろう“ジェンダーレス” ～上道中の制服リニューアルに学ぶ～

さんかくウイーク行事  
 上道公民館

6月20日、上道公民館では中学校の制服をテーマに「さんかくウイーク行事」を開催しました。上道中学校では、令和5年度から新制服を導入します。上道中学校・戸高校長から、新制服の導入にあたり、生徒のニーズ（安全・防犯・防寒）を受け、制服業者の協力を得て、PTA 執行部による勉強会等を行い、制服選定はPTA と教員で候補を絞り込み、小中学生・小学校保護者・中学校教員のアンケートを経て決定し、地域協働学校運営協議会やPTA 総会で承認された経緯の説明がありました。

これにより女子生徒もスラックスを選択できるようになり、導入までの期間もスラックス着用を可能としたとのことでした。



講座の様子

また、中学校としては「いのちの学びプロジェクト（自己の生き方を考える教育）」や、「素地づくり」一教員の言動や態度の見直し、男女区分の再点検（服装頭髪、呼称、名簿、係活動など）、違いを認め合い一人一人を大切にす学級経営（自尊感情を高める取り組み）など一にしっかり取り組んでいきたいと話されました。

制服業者からは、制服は多機能素材（消臭・撥水・抗菌・軽量・再生素材・ウォッシュャブル・ストレッチ等）となっており、“男子制服・女子制服”ではなく、A・B・Cタイプと呼称し、選択制としていること、LGBTQ（性的マイノリティ）を含む多様性への配慮のため、個別相談に応じる専門スタッフ（レインボースタッフ）がおり、すべての生徒が着たいと思える制服づくりを行っているとのことがありました。



新制服 A・B・Cタイプ

受講者の意見交換では、「選定プロセスもよく考えられており、快適な制服で活動も広がると思う。何より学校こそ多様性が認められる場でありたい」「現制服となった昭和33年から3年間、中学校に在籍していた。やっと変わるの思い。ボタンが、中学生が考えた上道中らしいデザインとなるのが楽しみ」「地域のほうもこれをきっかけに言動や態度を見直し、素地づくりの部分に関わっていけるよう、話し合っていきたい」といった意見が出されました。

公民館では、今後も男女共同参画社会について学ぶ講座を企画していきます。

**「さんかくウイーク」(6月21日～27日)**  
 市民のみなさんに男女共同参画への理解を深めていただき、男女共同参画社会実現に向けた様々な取り組みを行う週間です。この期間と前後1週間の間、市内の全公民館で行事を行っています。

**「さんかくカレッジ」**…下記の公民館では、身近なテーマでより深く男女共同参画の視点を学びます。  
 ■瀬戸公民館「誰もがかかわる介護・その先… ～ひとりで頑張らないために今できること～」9月～3月(全6回)  
 ■操山公民館「防災講座 女性と子ども目線で備えよう」9月～12月(全4回)  
 \*詳細は、各公民館へお問い合わせください。

※「れんめんめん」の由来…「連綿」と途切れることなく、「面」のように広がりを持ちながら、人々の営みが将来へとつながり未来を拓いていくことができるように、という願いを込めています。  
 ※QRコードの商標はデンソーウェーブの登録商標です。

## <防災・減災の取り組み>

平成30年7月の西日本豪雨においては、岡山市内でも大規模な浸水被害が発生しました。災害への対応の見直しを市民それぞれが自分のこととしてとらえ行動していくために、公民館では自助・共助を意識した地域防災・減災力向上をめざした取り組みをすすめています。

### 「防災語ろう会」 興除公民館

「防災語ろう会」は、令和元年度に実施した防災講座をきっかけに、発足しました。原則毎月第1土曜日の午前中、地域内外からいつでも参加できるというスタ



「ライフラインが途切れたら？」  
についての話し合い

ンスで継続し3年目を迎えています。令和2・3年度はテーマを「自助」とし、備蓄品や非常持ち出し袋等日常の備え、小中学校での防災学習の取組、避難所運営の実際、マイタイムライン、被災地でのボランティア活動や地域での活動、南消防署妹尾出張所によるAEDを使った救命救急法などについて学び、年間を通じて意識と実践力の向上をめざしました。

今年の4月には、今までの学習のまとめとして、地域の取組や学校での防災学習の展示、起震車体験、防災ゲーム、防災用品の展示や講座

などの内容で防災イベントを行い、多数の参加がありました。今年度はテーマに「共助」を加え、5月は防災・福祉の面から地区防災計画について学び、6月には他地域や学区内の継続した防災活動の報告から災害要配慮者の避難支援について考えました。7月は身近な一時避難場所として岡山南支援学校を実際に訪問し、現状の課題について意見を出し合いました。

今後は、公民館を想定した避難所運営や自分事として避難場所や避難方法を考えるワークショップ、年度末には再度防災イベントを開催予定です。

詳しくは興除公民館へお問い合わせください。



中学生以下対象防災ゲーム  
「家具転倒防止間違い探し」

### 「さんなん防災会議」 山南公民館

7月8日、第4回目の「さんなん防災会議」を行いました。この日のテーマは「新・ハザードマップ説明会」です。山南学区の水害リスクを総点検しようと、岡山市危機管理室の職員が講師となり、20名以上が参加しました。新しくなったハザードマップを確認しながら、「以前、この辺りは膝まで浸かったことがある」「排水場が良くなってから浸水がないと思う」「永安橋が渡れなくなるのかなあ」等々、参加した方から地域ならではの話題が口々に出てきました。

この「さんなん防災会議」は令和3年7月から定期的に開催しています。コロナ禍の影響で地域の自主防災会が活動しにくい中、災害への危機意識が薄れてはいけないと考え、興除公民館の取組みを参考に、山南公民館でも継続的に防災を考える機会を設けています。

防災については、小学生対象の夏休み講座や高齢者対象の居場所サロン、スマホ講座、子育て座談



7月8日 新・ハザードマップ説明会

会等に防災の視点を入れた回を設け、防災を意識化、啓発しています。

これからの「さんなん防災会議」では、自主防災組織とリーダーの役割や、地区防災計画の策定について等、地域に必要とされていることを取り上げていく予定です。

詳しくは山南公民館へお問い合わせください。



# 海ごみをなくすために私たちにできること

御南西公民館

ほんのひと昔前は田んぼが広がっていた御南中学校区、農業利用されている用水路に捨てられたごみは、笹ヶ瀬川へと流れ児島瑚へと向かいます。この問題に私たちはどんなアクションを起こすことができるのでしょうか。

御南西公民館では、5月27日・28日に主催講座「海ごみをなくすために私たちにできること」を開催しました。27日は大人を対象に、御南中学校の河合浩一校長が「地域と共に歩む学校」をテーマに話されました。その後、海ごみ問題の専門家である元日本福祉大学教授の磯部作先生から瀬戸内海や県内の河川の調査報告と、行政や企業による海ごみ削減の取組についてお話しいただきました。28日は、西長瀬町内会の協力の下、中学生32人と共に用水路の清掃と収集したごみの分別調査を行いました。清掃活動時に、笹ヶ瀬川にかかる白石橋の工事のため敷設されたオイルシートには、凄まじいごみが堰き止められていました。その光景を見下ろし、中学生は何を感じたのでしょうか。講師の水島地域環境再生財団の塩飽敏史さんから教わったことは

まずは陸や身近な用水路のごみをこまめに拾うこと、そしてプラスチックに依存している私たちの価値観を見直すことでした。

今後も公民館では地域の方や専門家・中学生等と共に、地域や海がキレイになりその学びが未来へとつながる取組を続けていきます。



西長瀬町内会長さん手作りの網で川底のごみをすくいました

## 上南公民館主催講座「海ごみワークショップ」

日時：10月2日（日）10:00～12:00

会場：上南公民館

内容（予定）

- ・基調講演「瀬戸内の海ごみの実態」  
講師 磯部 作さん（元日本福祉大学教授）
  - ・各地域の取り組み紹介
  - ・児島湾沿いの清掃活動または話し合い
- ※詳細は上南公民館へお問合せください。

## 「生き物の保全」シリーズ① 西大寺公民館

### 10年を超える豊学区のダルマガエル保護活動 世代を超えて受け継ぐ愛する心

ダルマガエルはその名のおり、ずんぐりとした体つきが特徴で、昔は普通に田んぼなどで見ることができました。しかし、開発による水田の埋め立てなどにより生息数が減少したため、「絶滅危惧種ⅠB」に指定されました。



ダルマガエル

そこで、開発が進む豊学区の新産業ゾーンでは市がその土地の一角を買い上げてダルマガエル保護地とし、保全活動をスタート。平成21年に地元住民、西大寺の自然を愛する会、公民館等が発起人となり「とよダルマガエルを見守る会」（以下「見守る会」）を立ち上げました。

公民館は見守る会の事務局を担い、主催事業

に位置付けて、見守る会の会員とともに防鳥ネットや水路の設置、草刈りなど10年を超える活動を続けた結果、令和4年6月の生息数調査では前年の同時期を大きく上回る68匹の個体を確認。その努力が実を結びつつあります。昨年度末には、10年間の活動をまとめた記録誌も作りしました。

地元の豊小学校では総合学習でダルマガエルを取り上げ、5年生の子どもたちはダルマガエルについて学習し、見守る会の会員と一緒に保護地に入ってダルマガエル探しをします。そして今年は子ども達自らダルマガエルを見守る会の会員募集チラシを作ってくれるという嬉しい申し出もありました。ダルマガエルを愛する心は世代を超えて確実に受け継がれています。



豊小学校の5年生たちの生息数調査の様子



## プロヴディフ市姉妹都市縁組 50 周年記念事業

岡輝公民館

# ヨーグルトのひみつ

～腸内環境を整えて健康な生活を維持していこう～

岡輝公民館では、7月11日に岡山市とブルガリア共和国・プロヴディフ市との姉妹都市縁組50周年を記念し、「ヨーグルトのひみつ」と題して、(株)明治の管理栄養士である山根遥さんにご講話をいただきました。なぜ(株)明治？それは「明治ブルガリアヨーグルト」が商品となって今年で50年。「ブルガリア」と「50年」というご縁がありました。

ブルガリアの国土は日本の3分の1、人口は約693万人、北海道の気候に似ているヨーロッパの国です。日本のヨーグルトの消費量は増加していますが、本場ブルガリアでは一人当たりの年間消費量は30～50kg、なんと日本の3～4倍にあたります。それは料理など日常的に食しているからだそうです。例えば、ホットケーキの牛乳を半分ヨーグルトに置き換えることでカロリーが押さえられ栄養価が増すとのこと。また、発酵食品でもあるので、味噌との相性

も抜群。「味噌汁に入れて飲んでみてください」と山根さんからのおすすめです。

「一日70～100gの摂取を

継続することが大事」と聞いて、腸内環境を整えて健康な生活を維持していこうと思われた方が増えたようにアンケート結果からうかがえました。

プロヴディフ市との姉妹都市縁組50周年を記念した「ヨーグルト健活セミナー」は市内各公民館で実施しており、9月6日に北公民館、9月13日に上南公民館、9月16日に御南西公民館で実施の予定です。詳細は各公民館にお問い合わせください。



7月11日の講座の様子

## シリーズ地域の宝や魅力を未来へつなごう①

### 井戸マッププロジェクト

妹尾公民館



つちえの井戸を説明

江戸中期まで児島湾に臨む漁業集落だった妹尾地域は、江戸後期の興除干拓で水田地帯に変わりました。妹尾地域の井戸には、飲料用の水を求めて地域外からも人々が集まっていました。妹尾公民館では、主催事業「井戸マッププロジェクト」として、これらの地域資源の調査、継承に取り組んでいます。

平成23年から地区にある数多くの井戸を巡り、『妹尾・箕島井戸マップ』（妹尾編と箕島編）という冊子にまとめました。平成29年には井戸だけでなく、史跡なども紹介する冊子『妹尾・箕島周辺見所絵図八十八景』を作成。『井戸マップ』や『見所絵図』を使って、地区の井戸・史跡を巡る催しを年に数回開催しています。

現在、6名の地元住民が井戸マッププロジェクトに参画、活動しています。昨年11月には、妹尾小PTAや福寿会（地元の老人クラブ）と共催して、「楽しく学ぼう in せのお地域の魅力大発見！」を実施し、子どもたちに井戸の説明やクイズを出すなどして活躍しました。また、地域の小学校にゲストティーチャーとして招かれ、地域の歴史を子どもたちに伝える活動もしています。



栗村神社を説明

現在は、月に一度の例会で、『見所絵図』の解説書作成や、井戸・史跡巡りの企画に励んでいます。今後も地区にある多くの歴史遺産を地域内外の人に伝え、妹尾の魅力を継承していきたいと考えています。